

春はるの野のに  
(大伴家持おおとものやかもち)

解説 本来なら嬉しいはずの春だが、夕暮れの景色のなかに、思い沈む気持ちを感じた詩。

春はるの野のに霞かすみ たなびき うら 悲かなし

語釈 ※たなびき||雲・霞かすみや、煙が横に長く引く。 ※夕影||夕暮れ時。  
※||鶯うぐいすは、春を告げる鳥として和歌のなかに登場することが多い。

この夕影ゆうかげに鶯うぐいす鳴なくも

通釈 春の野原のに霞かすみがでてきて、悲しく感じる。それは夕暮れの光の中で鶯うぐいすが鳴いているから。